

区の補助計画等のまとめ	1 芸術・観光・自治体交流分野の政策課題	2 課題解決に向けた施策の方向性
	<p>(1)さらなる「文化縁」の形成と充実に向けて、あらゆる区民の芸術文化活動を支援し、芸術団体間のネットワークの充実を図る必要がある。</p> <p>(2)東京2020大会を契機とした新たな事業展開や、区内の様々な団体・企業等との連携により、より多くの区民が芸術文化に触れる機会を提供する必要がある。</p> <p>(3)増加する外国人住民が安心して地域で生活し働ける環境整備や、多様な価値観や文化を相互理解する意識を醸成する必要がある。</p> <p>(4)東京2020大会後もホストタウン事業の継続を含め、地域や区内大使館と連携・協力を強化しながら、外国人住民と地域住民の交流を拡充していく必要がある。</p> <p>(5)総合的なまちづくりの視点で、「観光」と「地区整備」・「福祉」・「環境」などの他分野との連携・協力を推進する必要がある。</p> <p>(6)東京2020大会開催などによる訪日外国人旅行者数の増を踏まえ、多言語の様々なツールによる区の魅力発信や、フリーwifi及び自転車シェアリング等との連携など、外国人を意識した「おもてなしプログラム」に、様々な分野と連携・協力しながら取り組んでいく必要がある。</p> <p>(7)住民相互の国内・国際交流を安定的に実施していく必要がある。</p>	<p>【5年後】</p> <p>(1)芸術文化への多彩なアプローチづくり、活動支援、ネットワークの充実へ取り組む。</p> <p>(2)外国人住民や来訪する外国人に対して、行政、地域や生活情報などを多言語により幅広く提供できるよう取組を強化する。</p> <p>(3)東京2020大会終了後も外国人住民を含む外国人と地域住民が様々な交流が図れるよう取組を充実させる。</p> <p>(4)地域資源・人材などを活用した「おもてなしのまち」への環境整備を行う。</p> <p>(5)外国人を含む来訪者の増加を踏まえ、区の魅力を様々なツールを用いて情報発信する。</p> <p>(6)住民相互の自治体間交流を継続する。</p> <p>【10年後】</p> <p>(1)「文化縁」が新たな世代などによって更に充実した環境の下、芸術文化への多彩なアプローチづくり、活動支援、ネットワークの充実への取組を加速させていく。</p> <p>(2)多文化共生の意識が区民に根付き、外国人住民を含む外国人と地域住民との間に垣根や偏見がなくなり、外国人住民が地域に溶け込み、高齢化が進む地域の担い手になるなど、これまでの取組を充実させながら、相互理解をさらに深めていく。</p> <p>(3)多くの外国人を含む来訪者が区を訪れる中でも、魅力が高まった区の情報を誰でも気軽に受発信できる環境を維持・向上させていく。</p> <p>(4)住民相互の自治体間交流を安定的に継続する。</p>



審議会まとめ	3 審議会での主な意見
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 区内観光客の増加に伴う周辺住民の住環境への影響があり、居住者との共生も踏まえて観光ビジョンを進める必要がある。 ○ 魅力ある商店街づくりが都市型の観光につながると思うので、そのような魅力ある環境を創出することができればよいと思う。 ○ 区内の歴史的にゆかりのある文化人と、民間資金を活用して整備されている美術館・博物館とを結びつけたイベントの検討があってもよい。 ○ 区の魅力や資源を外国人に伝えられるよう、区の情報発信力を強化していただきたい。 ○ 区と関係機関等が連携し、外国人に区の有する資源や考えを伝えることが重要ではないか。 ○ 外国籍の方々が増加傾向にある中、長期的な視点で魅力的な取組を推進する必要がある。外国人住民が区の様々な活動に参画できる仕組みを構築する必要がある。
	4 芸術・観光・自治体交流分野の概ね20年後の区の将来像やあるべき姿【キーワード】
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国人住民を含めた多様な人々が活躍できる多文化共生社会の推進 ○ 住環境に配慮した目黒区ならではの観光まちづくり ○ 目黒区の地域特性を生かした戦略的な情報発信 ○ 芸術文化を契機とした人と人とのつながりの創出 ○ 区民の誰もが芸術文化に親しめる環境の整備